



純白の雪に覆われた大山

# 米子市 文化活動館 通信



冬空を舞う白鳥

## 今年こそ飛躍の年へ



館長 中村輝彦

新春のお慶びを申し上げます。昨年中は誠にお世話になり、ありがとうございました。

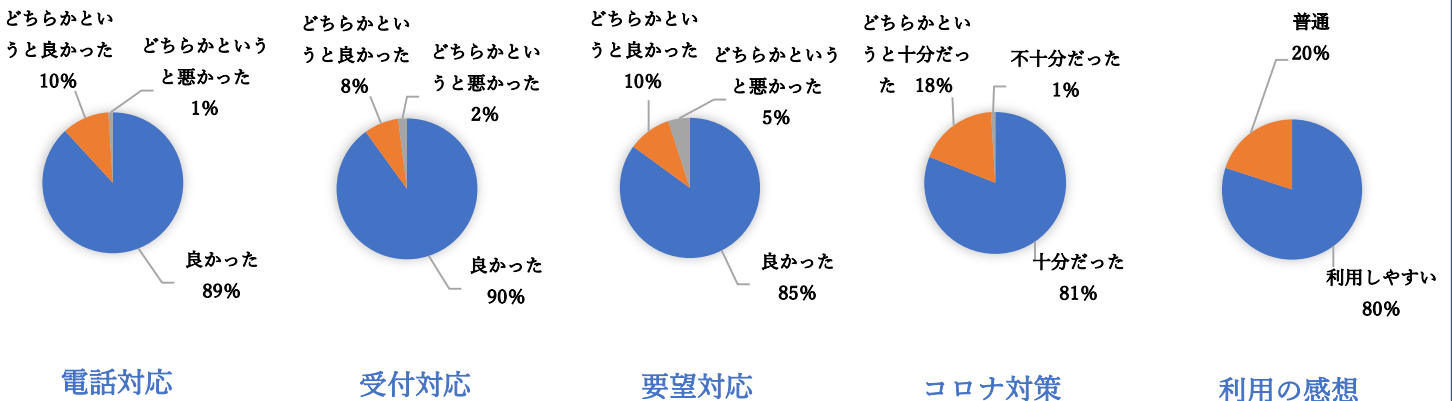
2023年は十二支でいうと「卯(う)年」で、十干(じっかん)では「癸(みずのと)」となり、六十干支(ろくじっかんし)は「癸卯(みずのとう)」となります。この癸卯は、「これまで

の努力が花開き、結実を始める飛躍の年」とされ、縁起が良いと考えられています。ここ数年は新型コロナウイルス感染症、最近では世界的なインフレや円安が私たちの生活に大きな影響を与えています。一方で、コロナとの戦い方は見えてきました。ダメージを受けた生活水準の改善に向けては、経済の活性化が不可欠ですが、円安がいつまでも続くものでもありません。私たちは、逆境に粘り強く、ぐっと耐えてきました。この力をばねにして、今年こそは大きく飛躍する年にしたいものです。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 令和4年度 利用者アンケートの集計結果

利用者の皆様にスタッフの対応などのアンケートを行い、105人の方にご協力をいただきました。



春の七草

木洩れ日  
散歩

七草がゆ 正月7日は、「七草がゆ」で知られています。セリやナズナ、ハコベラなどの七草をおかゆで味わい、1年間の無病息災を願うとされています。七草がゆは、シンプルで生命力あふれる「野草味」が魅力です。ところが、七草がゆの起源や成り立ちなどは、なかなか複雑です。一例ですが、平安文学『枕草子』第二段に「(正月)七日、雪間の若菜摘み、青やかにて…」とつづられています。これは「子(ね)の日の遊び」で、若菜摘みは、現代の七草がゆにつながるとする考え方もあります。また、春の七草の選定や和歌はどうでしょうか。通説では、南北朝時代の公卿の四辻善成(1326-1402)が詠んだ和歌「せりなづな 御形はこべら 仏の座 すずなすずしろ これぞ七草」が由来とされています。これに、『万葉植物文化誌』(木下武司著)は「春の七草の歌なるものは存在せず、四辻善成などが挙げた七種菜が定説として一般に広まるとともに四辻の七草の歌として信じ込まれるようになったのだろう」と疑問を投げかけます。現在、七草の行事では6日夜、七草を載せたまな板を包丁や火ばし、すりこぎなどでコンコンと叩いて拍子を取り、囃唄を歌う風習が一部地域で伝わっています。歌詞には地域差があり、「唐土の鳥が日本の土地に渡らぬさきに七草ナズナをそろえてホーホー」(鳥取市)のほか、「日本の鳥は唐土へ渡り、唐土の鳥は日本に渡り、渡らぬさきにセリ…」(米子市)など、地域や家庭でも違い、興味深いものです。なお、唐土は中国とされています。この七草行事の一連の流れは、七草がゆと害鳥を追い払って豊作を願う「鳥追い」が結びついたと考えられています。(文、写真とも山根)

## 弓浜絣の世界(番外編)

### 文様 ③

新年を迎えました。茶道では、年の最初の茶会を初釜と呼んで、大切な会とされています。さて、(イ)は、初釜とは限りませんが、茶道具などがあしらわれています。明治時代の弓浜絣です。(ロ)は、迫力のある虎と竹の構図で、まるで襖絵や掛け軸の世界観です。



(イ)明治期の弓浜絣



(ロ)竹に虎



織物教室入門②

### 学べる講座 アラカルト

織物教室入門②と織物教室初級②が、ともに昨年10月から12月、各6回開催されました。同初級③は、今年1月から、同入門③は、2月からスタート予定です。また、韓国料理教室を11月に2回開催しました。このほか、文化活動館では、9月に全スタッフによる消防訓練、10月は利用者有志が参加しての館周辺の除草作業に汗を流しました。



消防訓練



織物教室初級②



韓国料理教室



除草作業

**休館日** ◆1月=年始の1日(日)~3日(火)、9日(月)と毎週水曜日 ◆2月=毎週水曜日と11日(土)、23日(木)  
◆3月=毎週水曜日と21日(火) ◆4月=毎週水曜日と29日(土)

**利用時間** 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。



松江の芹



### あとがき

春の七草で、奈良時代の『万葉集』に種名がみられるのは、わずかに「芹(せり)」だけです。芹の和歌は、相聞歌(恋歌)の2首です。「あかねさす 昼は田賜(た)びて むばたまの 夜のいとまに 摘める芹これ」(昼は田を分け与える仕事で忙しく、夜に暇をみて摘んだ芹です)と恋慕の情を歌い上げます。返歌は「ますらをと 思へるものを 大刀(たち)佩(は)きて かに波の田居に 芹そ摘みける」(大刀を腰につけ、田にはいつくばって芹を摘んだのですか)と少しからかい気味です。山背(やましろ)国(京都府南部)に赴任した高官が芹に和歌を添えて女官に贈り、その返し歌は機知に富んでいました。贈り物とされた芹は、寒冷期の貴重な青物だったのでしょうか。芹は、奈良期の『出雲国風土記』にも記されています。「津間抜(つまぬぎ)の池に、コガモ、鴨、芹有り」(現代語訳)とあります。池は松江市浜乃木付近にあったとされます。その松江の芹は、「黒田セリ」がつとに有名です。黒田セリは江戸時代、藩の奨励で栽培が始まったとされ、野生種の芹を品種改良しながら今に続いています。(山根)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <https://y-bunkak.com> (1月1日変更のアドレスです)